

# 国語科 学習活動案

日時 2005年10月5日(水) 2校時  
児童 二セコ小学校 3年2組 21名  
授業者 福井 勝之

## 1. 学習材名 「のらねこ」

## 2. これまでの学習活動 ～「読み」の学習に関わって～

### 毎時間の最初に取り組む音読練習

- ・個人音読(3分)
- ・日直の指名による、先読みor後読み(4分)

↓  
日々の練習によって速読に近づける

中学年の重点目標  
他者との関わりを意識した学習活動

#### ① 「消しゴムころりん」～音読

**「校長先生や、他の先生に音読を聞いてもらおう！」**

～グループ学習で音読をつくり、校長室や職員室、保健室などに出向いて聞いてもらった。学級内でのものと違い、「聞かせるんだ」という意識が高くなり、始めた頃と読みが変わってきた。また、聞いてもらった先生方からもらったアドバイスを、その後の読みに生かす姿が見られた。

#### ② 「めだか」～音読紙芝居

**「説明文を紙芝居にして、お母さん方に読んで聞かせよう！」**

～グループ学習で説明文をしっかり読み、文章に合う絵を考えて紙芝居にした。見て聞いてくれる相手がいることを意識するため、わかりやすい絵を描こうと、内容をよく理解しながら取り組む姿が見られた。伝えるためにはよく読まなければならないという意識が身についてきた。

#### ③ 「雨だれ」・「まん丸の夕やけ」～群読

**「場面の様子が伝わるような読みをつくり、聞いてもらおう！」**

～グループ学習で詩の群読をつくり、校長室や職員室にいる先生に聞いてもらった。情景を豊かに表現して聞かせようと、リズムを意識し始めた。

#### ④ 「どんぐりと山猫」～暗唱

**「文を覚えてみんなで言えるようにし、聞いてもらおう！」**

～山猫一座による「どんぐりと山猫」の上演に合わせ、その文章の一部を暗唱し、色々な人に聞いてもらった。伝えることが楽しみになってきた。

#### ⑤ 「わすれられないおくりもの」～挿絵創作

**「自分で描いた挿絵や表紙絵のことを伝えよう！」**

～挿絵を抜いて本文だけになったものに、内容を読み取って自分で挿絵を描いていった。最終的に読みが深まった段階で、表紙にも思い思いの絵を加えた。出来上がった絵本を持って職員室へ行き、自分が描いた挿絵についての説明や表紙に描いた想いを、先生方に伝えた。一人ひとりの読み取りが絵に表れ、その読みを自分の言葉で伝えることができてきた。

#### 「のらねこ」～劇的表現

**「のらねこ一座」としてお話を上演し、見てもらおう！」**

～今までの学習活動を生かしながら、芸術鑑賞会で見た演劇に近づけるような読みを目指す。特に、作品を細かいところまで読み味わいながら、その面白さを、見てくれる人に伝える。豊かな表現ができるようにするためにも、文章をしっかり読みとる。

様々な

音読の高まり

表現で

読解力の向上

相手に

伝える楽しさ

伝える

豊かな表現

### 3. 本学習で培う基礎基本

～自分の思いを持ち、豊かに表現できる子どもの育成を目指して～

**基礎基本の力を高め、主体的に学習を進める。**

毎時間の最初に必ず、音読と新出漢字の練習を、子どもが中心となって進めてきた。やるべきことを自ら考え、繰り返し行ってきた。毎日続けることで、音読や言語に関する力をつけている。

また、春からたくさん「伝える活動」に取り組んできたことで、大きな自信もつけてきた。これらの基盤をもとに、さらに豊かに伝えるための方法を自ら考えて読み進められるようにしたい。

**豊かに表現するために、さらに読みを高める。**

自分の読みや思いを人に伝えることに楽しさを見出してきた子どもたち。今回は、以前に芸術鑑賞会で刺激を受けたという経験を生かし、さらに豊かな表現ができることを目指す。

豊かな表現のためにはやはり、本や作品に親しみ、よく読まなければ表すことができない。そこで、「表すために、そして伝えるために、文章をよく読む」ことを重点とする。

### 4. 学習活動計画

※ 本学習の活動に本格的に入る前に、音読の練習と新出漢字については既に毎時間の基礎基本のの定着のための時間に取り組んでいる。

時	学 習 活 動	
1	(読む) ・全文通読、言葉の意味調べ、10月5日公演に向けて意識を高める。	正確な読み
2 } 4	(読みを高める) ・一人ひとりの読みを、表現を意識した読みでグループで高める。	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的な学習</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border-left: 2px solid gray; border-right: 2px solid gray; height: 100%;"></div> </div>
5 } 9	(読みを広げる) ・場面や動きなどを考え、表現しながら読む。	
10 本時	(読みを伝える) ・これまでの「読み」を、公演という形で伝える。	

### 5. 本時の流れについて

step	児 童 の 学 習 活 動
1	☆ 音読の基礎を固める ・個人音読（3分） ・日直の指名による、先読みor後読み（4分）
2	☆ 漢字の基礎を固める ・新出漢字二文字の練習 ・既出漢字の復習
3	☆ 今日の学習活動 ・「のらねこ一座」の公演 ～ 読み味わったことを生かし、表現する。

**教師の支援**

個に応じた指導と、次時の活動へ向けて改善すべき点を見つけたら助言する。  
一人ひとりの達成感を見て、これからの活動への意欲を喚起する。

# これまでの学習活動の記録

時	児童の学習活動と変容	評価・支援
1 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文音読する。わからない語句を調べる。</li> <li>自分たちで担当する場面と、グループの中での役割を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この学習で、最終的に劇のような形で人に伝えることを知らせる。</li> <li>場面を分けて、担当グループを決めさせる。</li> </ul>
2 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館で音読の練習を始める。広い空間で読むことを意識し、大きな声で練習をする。</li> <li>この時間の中で、教科書を必要としない子が現れてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初から体育館で音読練習することを告げ、「体育館で人に伝える」ということを意識させる。まず初めは読み方の工夫を意識しないでいいから大きな声を出して練習するよう助言する。</li> </ul>
3 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を必要としなくなる。動きを考えながら読む子が増えてくるが、まだこの時点では“リョウ”と“のらねこ”の動きのみである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を必要としない子が増えてきたのを見て、動きを考えながら言うよう助言する。</li> </ul>
4 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>木箱を置くことで意欲は高まったが、その配置に囚われてしまって、読みそのものの時間が十分にとれなくなった。しかし、4グループのうちの一つだけ、<u>地の文を読む子にも動きが見え始める。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループのステージとなる場所を決め、演出のための木箱を床に使っていいと知らせる。</li> <li>形ではなく読みが重要なのだと話し、本来の目標を再確認させる。</li> </ul>
5 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の1グループの活動を見て、他のグループの子どもたちももっと動きをつけようと相談し、前時よりも動きが見られるようになる。しかし、全く「見る人」を意識した読みや活動にはなっていない。<u>動くことを意識しすぎて、音声表現の意識が低下していく。</u> また、どの子も、自分の言う文章を覚えてしまっているので、<u>“間違えずに言い切る”ことに徹し、他者を意識していない。</u></li> <li>お話を最初から最後まで通してやり、各グループの読みや動きを客観的に見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みの質や声量が低下してきているのを気にしつつも、一通り創り上げようとしている意欲を優先させる。</li> <li>また、この時点ではどのグループも、<u>“リョウ”と“のらねこ”との間の空気や距離を意識していない。</u>よく読んでいないことが窺えるが、この時間には触れずに次の時間に自分たちで気づいたところから近づけるようにする。</li> <li>ビデオカメラで撮影する。</li> </ul>
6 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオで自分たちの活動の様子を見るが、<u>客観的に自分のグループの姿を見るとあまり伝わってこないということに気づく。</u></li> <li>グループごとにこれから改善していくべきところについて話し合い、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人に伝える」ために、これからどういうことに気をつければよいかに気づかせる。特に<u>読みの意識を高めなければいけないこと、そのためには改めて文章を読まなければならない</u>ことを伝える。</li> </ul>
7 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かい描写や間、動きなどを豊かに表現するために、教科書の文を改めて読んで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みを聞いて不十分なグループや個に対し、<u>その文を繰り返し読ませ、考えさせる。</u></li> </ul>
8 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>通して練習。校長先生、教頭先生、岡本先生、奥田先生の4人に見てもらい、感想やアドバイスをもらう。 第5時と比べると、聞きやすくて見やすくなり、第6・7時の取り組みが生きている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見て頂いた先生方からもらったアドバイスについて、後で教室で確認する。</li> <li>これまでの変容を認めつつも、<u>“初めて見る人に伝わる読みをしよう”</u>と助言する。改めて音読の大切さを確認する。</li> </ul>
9 体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後に2年生に見てもらおう。(予定)</li> </ul>	